

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	就職対策講座Ⅰ	
担当教員の実務経験		
対象学生	保育・福祉・心理学科 保育コース4年	
授業時間数・単位数	30コマ	2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	・ 保育者として必要となる技術の習得 ・ 就職活動または保育現場に必要な書類の書き方等の指導を行う	
授業の到達目標	・ 講義、演習を通して今後に生かしていくことができる技術の習得 ・ 希望就職先の内定	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（60点未満）とする。試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	駒井美智子「すぐに使える!! 笑顔いっぱい! あそびのレシピ」大学図書出版 阿部恵 他「教育・保育実習安心ガイド」ひかりのくに 大元千種「書き方・あそび・保育のコツがわかる 実習日誌と指導案サポートブック」ナツメ社	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み取る 子どもの最善の利益のための配慮を学ぶ		2
現場における保育環境についての理解 物の配置、教材・教具の準備、安全と衛生管理等		1
保育者の役割・子どもへの理解 保育者の立ち振る舞いとは（挨拶、掃除、食事、身だしなみ等）		1
保育技術の習得、発表① 教材研究（手遊び）		1
保育技術の習得、発表② 教材研究（絵本、紙芝居）		1
保育技術の習得、発表③ 教材研究（折り紙）		1
保育者に求められる質とは何か1 「使命感、責任感、社会性・対人関係能力」		1
保育者に求められる質とは何か2 「乳幼児の理解、発達に応じた援助、学級経営」		2
保育者に求められる質とは何か3 「保育内容の指導力」		2
保育技術の習得、発表④ 教材研究（製作活動）		2
保育技術の習得、発表⑤ 教材研究（壁面制作）		3
保育技術の習得、発表⑥ 教材研究（ペープサート・パネルシアター・エプロンシアター）		4
指導計画の立案・指導案の作成 （ねらいと内容、環境構成、援助、留意点など）		2

模擬保育実践 指導案をもとに模擬保育を行う	2
振り返り・反省	1
志望動機	1
履歴書の書き方	1
自分が目指したい「保育者」としての専門性をより向上させるためにこれから力を入れたいことは何か、自分の理想像とは何かをまとめる。	2
合計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	教育心理学	
担当教員の実務経験		
対象学生	保育児童福祉学科4年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	教育心理学とは、子供を教育していく上で必要となる知識を身につけ、子供の成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探求する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。	
授業の到達目標	教育心理学における発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について理解したうえで、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	山崎史郎『教育心理学 ルック・アラウンド』ブレーン出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
教育心理学とは 教科書pp.3-7、pp.13-17 を通読し、教育心理学の内容や意義、教育心理学で用いられる研究法などを理解すること。教師の役割を教育心理学の観点から考えてみるのもよい。		1
教育心理学のあゆみ 教科書 pp.7-12 を通読し、教育心理学の歴史を概観する。代表的な研究者の研究がどのような意味を持っているかを考えること。さらに詳細な研究内容や他の研究者を調べてみるのもよい。		1
子どもの発達 ―遺伝と環境、レディネスの概念― 教科書pp.21-44 を通読し、代表的な発達理論、遺伝と環境のかかわり、レディネスの概念などについて理解すること。学校現場における、これらの理論の位置づけや応用について考えてみるのもよい。		1
知能 ―知能の概念の有効性と限界― 教科書pp.47-58 を通読し、代表的な知能の理論、知能の発達、知能の規定因などについて理解すること。学校現場における知能の概念の位置づけや利用法、その限界、注意点などについて考えてみるのもよい。		1
性格（パーソナリティ） ―性格の概念と個人差― 教科書pp.59-72 を通読し、代表的な性格の理論、性格の形成、性格の診断法などについて理解すること。学校現場における、個人差としての性格の概念の意義や利用法、その限界、注意点などを考えてみるのもよい。		1
学習のメカニズムについて パブロフの古典的条件づけ、スキナーのオペラント条件づけ、社会的学習、洞察による学習など、学習のメカニズムを他の参考書なども用いて、整理しておくこと。		1
学ぶ意欲と授業の課程 ―動機づけとさまざまな授業方法― 教科書pp.77-94 を通読し、動機づけの概念、原因帰属などの理論、さまざまな授業方法について理解すること。学校現場において、子どもの動機づけを高める工夫や、効果的な授業方法を自分なりに考えてみるのもよい。		1
学習の評価 ―教育評価の方法とテスト― 教科書pp.95-104 を通読し、学習の評価の目的、基準などについて理解すること。統計学については基本的な部分はおさえておくこと。学校現場での実際の教育評価の方法や注意点などについて考えてみるのもよい。		1
集団としての子ども ―教育現場の社会心理学― 教科書pp.109-127 を通読し、集団行動やリーダーシップなど、社会心理学的な観点からの教育活動について理解すること。学級運営における社会心理学の理論の実際の応用例などを考えてみるのもよい。		1

子どもの不適応行動１ ―いじめの問題― 教科書pp.131-153 を通読し、子どもの心の健康やストレスなどについて理解すること。特に最近問題になっている「いじめ」について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策などを考察してみる。	1
子どもの不適応行動２ ―不登校、非行などの問題― 「不登校」や「非行」などの問題について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策を考察してみる。	1
子どもの不適応行動３ ―現代を生きる子ども― 現代社会を生きる子どもは、それ以前の時代の子どものように異なるのか。発達環境の相違や変化などを考え、それが子どもの発達に与える影響を考察してみる。	1
学校カウンセリングの基礎 教科書pp.154-161 を通読し、学校カウンセリングの基礎的な事項について理解すること。相手がいわば、初歩的なカウンセリングの技法について実際に練習してみるのもよい。	1
進路指導と進路選択 教科書pp.162-167 を通読し、進路指導や進路選択、職業適性テストなどについて理解すること。自身の進路選択についての経験を客観的に分析してみるのもよい。	1
障害のある子どもの理解 教科書pp.173-201 を通読し、学校現場で出会う可能性のある各種の障害について理解すること。それぞれの障害のある子どもへの適切な対応について考えてみるのもよい。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	家庭支援論	
担当教員の実務経験		
対象学生	保育児童福祉学科4年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	家族の意味(定義) 基本的機能をおさえた上で、子どもの健全な発達や社会の発展のために果たす家庭の役割、子育て家族を取り巻く社会的状況の厳しさを学修し、家庭支援の必要性を理解する。家庭のニーズに応じた多様の子育て支援の方法、関係機関との連携などについて身近な地域(居住地)の実態を通して、保育者として可能な支援を考える。	
授業の到達目標	家庭支援の必要性や支援の方法、関係機関との連携などについて学習したうえで、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	山縣文治、他『よくわかる家族援助論』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
家族援助の対象と役割 (pp.2-17) 家族援助が求められるようになった背景からその意義を理解する。次いで、家族援助がどういう概念であるか、その構造、理念、技術、サービスの形態、およびサービスの種類について理解を深める。		1
子どもと家族 (pp.18-33) 家族の形態と子どもが生まれ育つ中で、家族がどのように機能し変化するかを学ぶ。 家族の形態、機能、取り巻く社会について理解を深める。また、親になるプロセスについて理解を深め、子どもの発達と親や家族のかかわりと影響について理解する。		1
保育士による家族援助 (pp.34-43) 家族援助における保育士の役割と支援内容について 基本的な保育士の役割とは何かを踏まえ、家族援助における保育士の役割および倫理を学ぶ。また、保育所を利用する家庭や児童福祉施設を利用する家庭への援助についても学ぶ。		1
家族援助にかかわる法・制度 (pp.44-55) 子ども・子育てに関わる法にはどのようなものがあるのだろうか。また、その他の法律で子育てに関する法律にはどのようなものがあるのだろうか、それぞれの制度および指針について理解を深める。保育所保育指針と幼稚園教育要領における子育て支援について学ぶ。		1
子どもと家族を支える機関や人 (pp.56-77) 児童相談所、福祉事務所、家庭児童相談室、子ども家族福祉の行政、保健所と市町村保健センター、児童福祉施設、児童家庭支援センター、および家庭裁判所などの機関と人についてそれぞれの目的と内容を学ぶ。		1
子どもと家族を支える機関や人 (pp.76-88) 教育関係機関、認定こども園、児童委員・主任児童委員、社会福祉協議会、子育てサロン、子育てサークル、子育てネットワークについて、それぞれの目的と内容を学ぶ。		1
子どもと家族を支援するサービス (pp.90-103) 子どもと家族を支援する社会資源としてのサービスにはどのようなものがあるのか理解を深める。 (保育所における保育サービス、子育て短期支援事業、幼稚園における預かり保育事業、認可外保育サービス、訪問型保育サービス、育児休業制度など。)		1
保育所・幼稚園における家族援助 (pp.104-125) 保育所等における家族援助の在り方、方法、および手段について学ぶ。また、障害のある子ども、虐待家族、ひとり親家庭などの特殊なニーズへの支援について理解を深める。		1

在宅子育て家庭への支援(pp.126-133) 在宅子育て家庭への支援の対象や、各現場での支援について理解を深める。	1
在宅子育て家庭への支援(pp.134-145) 在宅子育て家庭への支援における情報収集から企画、実施、評価までを学ぶ。	1
要保護児童とその家族への援助(pp.146-155) 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、などにおける乳児児童とその家族への支援について、様々な現場の特徴を学ぶ。	1
家族への個別援助(pp.156-167) 家族の支援について、展開過程の各段階における留意点を学ぶ。①受理・情報収集と分析、②援助計画の作成、③援助活動の実施、④援助活動の評価と終結、⑤記録	1
家族援助や地域の子育て支援の実際(pp.168-199) 電話相談の事例や保育所における子どもの虐待への援助事例を読み、支援への理解を深める。	1
家族援助や地域の子育て支援の実際(pp.168-199) 障害のある子どもの事例や、地域子育て支援センターにおけるプログラム開発、子育てサークルの支援を研究し、支援への理解を深める。	1
家族援助や地域の子育て支援の実際(pp.168-199) 地域子育て支援センターにおける子育て支援、虐待を受けて児童養護施設に入所している子どもの事例、児童福祉施設に入所している子どもの家庭復帰の支援を研究し、それぞれへの理解を深める。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育・教育課程論	
担当教員の実務経験		
対象学生	保育児童福祉学科4年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。また、「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解するとともに、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。	
授業の到達目標	指導計画の重要性を理解したうえで、計画・実践・反省・計画の改善までの関係性を学習しレポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	神長美津子、他『新保育シリーズ 教育課程・保育課程論』光生館。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育における計画の重要性を理解する（教科書第1章） ・「カリキュラム」、「教育課程・保育課程」の意味することを理解する。		1
幼児期の学習の特質を理解する（教科書第2章） ・遊び、生活を通しての学びと系統的な学習との違いと関連を理解する。		1
経験カリキュラムと系統的カリキュラム（教科書第1章 第1節、第2節、第3章） ・カリキュラムにおける系統性と子どもの経験との関連を理解する。		1
幼稚園における教育課程の意義と編成の基本の理解（教科書第4章） ・教育課程に関する法律と教育課程編成のしかたを理解する。		1
保育所における保育課程の意義と編成の基本の理解（教科書第5章） ・保育課程の編成内容（養護と教育、家庭との連携等）を理解する。		1
教育課程・保育課程の編成の実際（教科書第6章） ・教育・保育課程編成の手順、形式、記入内容を例を通して理解する。		1
教育課程・保育課程と指導計画の関係（教科書第7章） ・指導計画の必要性。教育課程・保育課程から指導計画をどのように作成するかを理解する。		1
幼稚園における長期指導計画（教科書第8章 第1節、第2節） ・幼稚園における年間、期間、月の計画の目的内容を理解し、事例を参考に作成してみる。		1
保育園における長期指導計画（教科書第9章 第1節 第2節） ・保育園における年間、期間、月の計画の目的内容を理解し、事例を参考に作成してみる。		1
幼稚園における短期指導計画（教科書第8章 第2節 第3節） ・幼稚園における週案、週日案、日案の目的と内容を理解し、事例を参考に作成してみる。		1
保育園における短期指導計画（教科書第9章 第3節） ・保育園における週案、週日案、日案の目的と内容を理解し、事例を参考に作成してみる。		1
指導計画と保育実践（教科書 第8章 第9章を用いる） ・これまで学んだ指導計画作成上の配慮点から、計画を実践に移す際の配慮点をまとめてみる。		1
保育の記録と反省（教科書 第10章。参考文献） ・保育における記録の重要性と記録の仕方、及び月、週、日の保育の反省の仕方、反背の観点の違いを学ぶ。		1

保育の評価と計画の改善（教科書 第10 章。参考文献） ・長期計画、短期計画について、計画がどのように実践されたか、そこから次の計画をどう修正するかを事例を通して学ぶ。	1
教育課程・保育課程の展望（教科書 第11 章） ・社会の保育ニーズ、保育制度の変化と教育課程・保育課程の内容との関連、他国の保育（教育）課程の考え方を考察する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	臨床心理学	
担当教員の実務経験	臨床心理士として精神科病院等で実務経験有	
対象学生	保育児童福祉学科4年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人の適応や発達、自己実現を専門的に援助する実践について研究する学問である。そのため、まず、発達の観点からの臨床心理学の人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的な課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な側面と方法について学び、さらに、様々な臨床心理学的援助の方法についても概説する。その上で、臨床心理学的実践の様々な領域についての学修を重ねて、実践的な臨床心理学的な視点や思考方法を身につけていく。	
授業の到達目標	各ライフステージの特徴と発達課題を理解する。 心理アセスメントや臨床心理学的援助の方法を学習したうえで、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	野島一彦『臨床心理学への招待』 ミネルヴァ 書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
臨床心理学とは何か、教科書pp. 2－4 を精読して、精神医学との対比から理解する。		1
臨床心理学の学問的背景について、教科書pp. 10－17 を熟読して、歴史的観点から理解する。		1
正常と病理の概念について、教科書pp. 20－26 を塾読して、様々な観点からの理解を深める。		1
乳幼児期から児童期までの発達特徴と臨床心理学的な発達課題について学修する。教科書pp.27－38 を熟読して、健康な発達の様相を理解した上で、それぞれの発達期の心理的問題について学修する。		1
青年期の心理と臨床心理学的問題を学ぶ。教科書pp.38－45 を熟読し、青年期の発達課題と現代がもつ青年期の問題について理解する。		1
成人期と老年期の心理について学ぶ。教科書pp. 45－54 を熟読し、それぞれが持つ発達の課題と危機について理解する。		1
心理アセスメントの理解(見立てと診断の違い)とその多様性を知る。教科書pp.56－65 を通読し、実際の心理アセスメントについて理解する。		1
心理面接によるアセスメントについて、教科書pp.66－76 を熟読し、実践的な方法と実際場面で起こりうる問題とその対応について学修する。また、教科書pp.84－88 を熟読し、行動観察によるアセスメントについても理解する。		1
心理テストによるアセスメントについて、教科書pp.77－83 を熟読し、心理テストを実施するにあたっての諸問題を理解し、その多様な種類とテストバッテリーについて学ぶ。		1
臨床心理学的援助の方法として、代表的なものを学修する。教科書 pp.90－112 を通読し、精神分析療法、行動療法、クライエント中心療法の考え方を理解する。		1
臨床心理学的援助の方法として、対話以外の方法を用いた心理療法について学修する。教科書pp.113－131 を通読し、遊戯療法、芸術療法、催眠・自律訓練法を知る。また、教科書pp.132－146 を通読し、日本で開発された心理療法を知る。		1
臨床心理学的援助の方法として、家族・集団・地域社会へのアプローチを学修する。教科書pp.170－173 を塾読し、家族療法を知る。教科書pp.173－178 を塾読し、グループ・アプローチを知る。また、教科書pp.178－182 を塾読し、コミュニティー・アプローチとは何かについて理解する。		1
教育・福祉・司法のそれぞれの領域における臨床心理学的実践について学修する。教科書pp.184－188 を通読し、学校現場での教育相談について知る。教科書pp.189－193 を塾読し、福祉現場の心理臨床を知る。教科書pp.194－198 を通読し、司法・矯正の領域での様々な実践現場を知る。		1

医療の領域における臨床心理学的実践について、教科書pp.199－203を熟読し理解する。また、産業の領域における臨床心理学的実践について、教科書pp.204－208を塾読し理解する。	1
地域における臨床心理学的援助について学修する。教科書pp.209－213を塾読し、地域における心理臨床家の役割を理解し、他機関との連携の在り方について学ぶ。教科書pp.214－219を塾読し、開業心理臨床の実際について理解する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育内容総論Ⅱ	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科4年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	幼稚園修了までに子どもが経験し、育つことが期待されている事項、すなわち「ねらい」を達成するための内容が保育内容である。この科目では、①保育内容(5領域)を総合的に把握する、②期待される事項がどのような活動を通して、経験されていくのかを実践とつなげて理解する、③子どもの発達段階にふさわしい主体的な活動を捉える目を持ち、適切なかかわりを考える、等を中心内容とする。	
授業の到達目標	保育内容(5領域)の理解、子どもの発達段階にふさわしい主体的な活動を捉え、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関口はつ江、岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1 保育の基本の確認①	保育の基本の理解(育てる・育てられる関係、生きる力の基礎を育てること、環境を通しての保育、ねらいと活動の総合性 保育方法の特性) 教科書第1章 (演習課題 1、3を行う)	1
2 保育の基本の確認②	保育内容の理解(ねらいの内容、発達の視点としての保育内容理解) 教科書第2章 (演習問題 1を行う。)	1
3 保育の基本確認③	現在の幼稚園教育、保育所保育における保育内容理解(5領域のねらいと内容、領域間の関連、発達段階と保育内容) 教科書第2章 (演習問題2を行う)	1
4 保育の基本確認④	保育内容の変遷理解(保育内容の変遷とその社会的背景理解、日本の保育はどのように変わってきているか、その動向と変化の理由をまとめる) 教科書第3章 (演習課題1、3を行う)	1
5 実践につながる保育内容理解①	保育における子どもの育ちの捉え方(活動の経過と子どもの育ち、生活や遊びの中で育ちの見方) 教科書第5章 (演習問題2を行う)	1
6 実践につながる保育内容理解②	保育方法と保育内容の関連(保育のねらい、内容の達成のための多様な保育方法保育形態とその目的理解) 教科書第4章 (演習課題3を行う)	1
7 実践につながる保育内容理解③	保育ニーズと保育実践の方法理解(統合保育、多文化保育、地域連携、専門機関との連携) 教科書第4章 (演習課題 1 または 2 を行う)	1
8 保育内容と指導計画①	3歳未満児の指導計画のポイント(各年齢段階の発達状態と生活、遊びの指導の要点と配慮) 教科書第6章 (演習課題2を行う。)	1
9 保育内容と指導計画②	3、4、5歳児の指導計画のポイント(各年齢段階の発達状態と遊び、生活の指導の要点と配慮点、個と集団関係、活動の連続性への着目) 教科書第7章 (演習課題1、2を行う)	1
10 保育の実際①	1、2歳児の保育の実際の理解(1日の生活の流れ、基本的生活習慣の指導の仕方、遊びの指導の要点) 教科書第8章 (演習課題 1、3を行う)	1
11 保育の実際②	3歳児保育の実際の理解(3歳児の発達、生活の姿と保育内容、保育者との関係、友達との関係、遊びの特徴、保育上の配慮点の理解) 教科書第9章 (演習課題1、3を行う)	1
12 保育の実際③	4歳児の保育の実際の理解(保育内容「表現」の例による4歳児保育の保育者の意図的環境設定、活動の誘導、保育教材の扱い方、保育者の技術の重要性の理解) 教科書第10章 (演習課題2を行う)	1

13 保育の実際④ 5歳児の保育の実際理解(5歳児の発達の姿と保育内容、指導の仕方、5歳児にふさわしい個別活動、園活動、指導の要点の理解) 教科書第11章 (演習課題2を行う)	1
14 小学校教育との接続 小学校の教科と保育内容の違いと幼小連携(幼児期の生活の中での学びと小学校での系統的学習の違い、領域の考え方の確認、共同的学びの理解) 教科書第12章 (演習課題1を行う)	1
15 現代社会と生きる力の基礎 保育に対する社会のニーズと多様な保育実践(特色ある保育とは、今求められている保育とは、地位との連携、保育者の役割理解) 教科書第13章 (演習課題1または3を行う)	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	教育実習指導（初等）	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科4年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園および小学校で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。 本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解（教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般）幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園および小学校教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。 学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部につけて反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。	
授業の到達目標	実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。 保育者に求められる専門的な知識の定着とともに、幼稚園教育をめぐる諸問題及び解決のための取り組み等について知見を広げ、専門性の向上を図る。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	『教育実習（初等）の手引き』。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
講義概要 教育実習の意味 実習に向けての自己課題		1
子ども理解と援助・支援技術の理解 教育環境と子どもの実態		1
実習に必要な心構え、マナー、資質の理解		1
指導案、記入に必要な事項		1
子どもの活動と教師の援助、支援		1
指導案一枚の中の関連		1
指導案の作成 題材、活動内容等の記入		1
指導案の作成 援助、支援等の工夫		1
模擬保育・授業の実施 その1		1
模擬保育・授業の実施 その2		1
模擬保育・授業の実施 その3		1
子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その1		1

子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その2	1
目指す授業と自己課題の再設定	1
まとめ	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	教職実践演習（幼稚園）	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科4年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	教育実習での体験を主たる題材として、子育て支援のあり方の幅広い可能性に重点を置いて「こどもの専門家」としての職業意識を養う。教育実習体験での具体的な事例、課題についてグループで課題を設定し、学習を行うことを通じて問題解決の総合能力を養う。	
授業の到達目標	自己の実習を振り返るとともに、さらなる技術の習得と次の実習に向けて課題克服を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	教員の配付する資料。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育者の専門性とは何か		1
教育実習においての問題点と今後の課題について		1
児童福祉行政における問題点について① 児童虐待		1
児童福祉行政における問題点について② 多文化保育		1
児童福祉行政における問題点について③ 統合保育・その他		1
児童を取り巻く問題点について（教育・適正支援とは）		1
幼児文化教材の理論について（教材とは）		1
幼児文化教材の制作（興味性、教育性、児童性について）		1
幼児文化教材の制作（問題解決を備えた教材制作となるように考える）		1
幼児文化教材の制作（問題解決を備えた教材制作となるように実際に作成する）		1
幼児文化教材発表会…「演ずるとは何か」		1
保育者に求められる質とは何か 「職務に対する使命感・責任感、社会性・対人関係能力」の観点から		1
保育者に求められる質とは何か 「幼児の理解・学級経営」の観点から		1

保育者に求められる質とは何か 「保育内容の指導力」の観点から	1
保育者の質と組織活性化とは何か。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育実践演習	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科4年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	本科目は、これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図ること、及び専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高めることの二点が目標となっている。ここでは前者を踏まえながらも後者を中心に現在の保育実践上の課題、子どもや子育てに関わる環境上の諸問題を自ら発見し、その改善に向けての方策を考え、実行することができるよう、問題発見能力、課題解決能力、実践への積極的態度を養う。そのために現在の保育問題(少子化、保育制度、子育て支援、幼小連携等)を調べたり、実践法を工夫するなど、身近な具体的課題を設定し、グループ討議、研究発表、レポート作成等を行う。	
授業の到達目標	これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図る。 専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高める。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関口はつ江、他『保育の基礎を培う保育原理』萌文書林。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1 保育の基礎:教科書序章を読んで、保育をするとはどのようなことか、保育実践の特殊性と保育者に必要な専門的技能とはどのようなことかをまとめる。保育者の責任と倫理を理解する。		1
2 子どもの最善の利益を考慮した保育:「現在は子どもの最善の利益を考慮した保育」がキーワードであるが、その意味を考え、保育者としての使命はどのようなことか、実現における問題点は何かを考える。(教科書第1章第3節)		1
3 社会の現状と子育ての上の問題①日本の子育てで環境の問題点について:少子高齢化社会、学歴社会、伝統的な子育て観、ライフワークバランス問題等を新聞、雑誌その他の最新資料から集めて、整理する。(教科書第2章第1節 演習問題3)		1
4 社会の現状と子育ての上の問題②日本の保育制度の問題点について:保育経営者、保育者、保護者の立場から考えたり、意見交換をする。または実際に面接調査などを行う。(教科書第2章第2節、演習問題1)		1
5 社会の現状と子育ての上の問題③保育環境の問題点を補うための方策:現在の問題を政治的、経済的立場、保護者の立場、子どもの立場から問題点を考え、どのような視点から解決しなければならないか、また、どのような工夫あるかを討論、考察する。(教科書第2章第7章)		1
6 保育環境の改善①子どもの安全と安心のための環境:乳児保育における保育者の気配り、保育の時間的空間的死角、安全確保のための心構え、保育者の連携等についてまとめる。できれば実際の保育現場でどのような工夫をしているかを学ぶ。(教科書第5章第1節)		1
7 保育環境の改善②子どもの活動発展のための環境:子どもの自発的活動を発展させるための環境構成を、教科書の例、視聴覚教材、保育現場の観察から学び、まとめる。(教科書第6章2、3節)		1
8 保育環境の改善③地域との連携協力:日頃地域の人とどのような関係を作るか、互いに協力して地域の子どもを育てる意識をつくるための保育者としての工夫を考える。地域行事への参加、地域の人の保育参加の例などを集める。(教科書第5章第3節)		1
9 保育者としての実践力①保育者としての基本的なふるまい方(公平性、正確性、相手への尊重、社会的マナー、生活習慣、言葉遣い等)保育場面を限定してロールプレイをし、自己反省をする。		1
10 保育者としての実践力②子どもの内面理解と受容:信頼関係の形成の重要性を確認し、かかわりの実際事例を幾通りも考え、その効果を考察する。(教科書第3章第1節(2)第5章第1節 演習問題1)		1
11 保育者としての実践力③子どもの活動発展のためのかかわり:物の活用、共感、参加、誘導などを、具体的場面を想定		1

して考え、多様な観点から考察する。(教科書第6章第3節 演習問題2)	
12 保育者としての実践力④保護者とのかわり: 支援の仕方、保育者のニーズのどう応えるか。事例を出してロールプレイを行う。(教科書第5章第3節)	1
13 保育者としての実践力⑤保育教材の創意工夫: 身近な材料を用いて手作り教材を手軽に作成する習慣を作る。(子どもと一緒に作るもの、遊びの媒介になるもの、絵本やパネルシアターなど児童文化教材など)	1
14 保育者としての向上①: 保育者の振り返り、保育カンファレンス、相互評価から、常に他に対して開放的、建設的な態度、向上心を形成する。(教科書第6章第6節、第7章2節(2))	1
15 保育者としての向上②: 保育の世界の動向、重要性の確認から、保育者としての自己課題、互いの長所短所の整理などを通して、保育者としての自覚を高める。(教科書第7章)	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育実習事後指導Ⅱ	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科4年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育実習Ⅰでの総括・評価を行い、それを踏まえて保育実習Ⅱ(Ⅲ)に向けた学修目標・課題を明確化する。 1. 保育実習Ⅰで生じた疑問点を解消する。 2. 保育実習Ⅰの反省と自己課題を明確にする。 3. 保育者に求められる資質・能力について理解する。 ※本スクーリングは保育実習Ⅰ実施後、保育実習Ⅱ(Ⅲ)実施前に受講する。	
授業の到達目標	自己の実習を振り返るとともに、さらなる技術の習得と次の実習に向けて課題克服を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。 駒井美智子『施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育所実習の目的、意義を再確認する		1
自己の実習を振り返る(保育所実習)…実習ノートから 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。		1
部分実習・責任実習の指導案の実践について振り返る		1
施設概要をふまえ、施設実習の目的、意義を再確認する		1
自己の実習を振り返る(施設実習)…実習ノートから 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。		1
自己の保育技術についての反省・考察 次回の実習への準備…実習後の自己課題について		1
1～6の学修内容について、スクーリング時に発表できるようにまとめるを行う。		1
保育現場に関する視聴覚教材を参考に、保育環境、子どもの人間関係、保育者の援助について学ぶ。 また、子どもを理解する大切さを知る。		1
子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する(0～2歳)		1
子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する(3～5歳)		1
保育技術の修得 教材研究(絵本、紙芝居、折り紙、手遊び等)		1
保育士の専門性について考察する(1) 保育士の専門性とは何か。		1
保育士の専門性について考察する(2) これからの保育者に求められるものとは何か。		1
保育士をとりまく今後の課題について 子育て支援・家庭支援、地域に根ざした保育所とは。		1

実習現場から得られた学びと、この科目の学習で得た新たな保育観についてまとめ、次回の実習における課題を明確にする。	1
計	15
授業単位数	1